東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2010 年 7 月 2 日

ミアラージュ

親愛なるムスリムの皆様。今度の木曜日から金曜日にかけての夜は、ラジャブ月の２７日目、ミアラージュの夜になります。辞書的には「上昇への要因」もしくは「上昇」という意味になるミアラージュは、預言者ムハンマドが崇高なる位階に上昇されたことを意味します。夜の旅の意味になる「イスラー」は、夜のある時、預言者ムハンマドがマッカからエルサレムへ運ばれたことを指します。この夜の旅についてはクルアーンで明らかにされています。「そのしもべを、（マッカの）聖なるマスジドから、われが周囲を祝福した至遠の（エルサレムの）マスジドに、夜間、旅をさせた。わが種々の印をかれ（ムハンマド）に示すためである。本当にかれこそは全聴にして全視であられる。」（夜の旅章第１節）

ミアラージュの奇跡は、ハディースで明らかにされています。預言者ムハンマドはジブリールと共に、天空へ、崇高なる位階へと昇られます。そして異なる世界が預言者ムハンマドに示されます。ミアラージュはヒジュラ（聖遷）の１年前、そして叔父アブー・ターリブと妻ハティージャが亡くなり、多神教徒達の弾圧が激しくなり、ターイフで投石にあい、多神教徒からの迫害に耐えられず一部のムスリムがエチオピアに移住した時期に起こった出来事です。このような状態においてアッラーは、預言者ムハンマドにミアラージュによって誉れを与えられたのです。

親愛なるムスリムの皆様。ミアラージュを、私達の限られた力や基準で理解しようとしてはいけません。アッラーの無限のお力と共に尊いものとし、１つの奇跡として把握するべきなのです。今日、ミアラージュを理解することは、おそらく以前よりは容易でしょう。なぜなら科学技術の発展により、人の想像を超えるような多くの物事が生じているからです。

親愛なるムスリムの皆様。最初の節で夜の旅について言及している、クルアーン第１７章２３節から２９節に見られるアッラーのご命令を紹介し、今日のホトバを締めくくりたいと思います。

「アッラーにのみイバーダを行ないなさい。アッラーに何ものをも配してはいけない。母と父に敬意を示し、従いなさい。近親者、貧者、道で困窮している人に施しをしなさい。彼らの権利を与えなさい。貧しくなるという畏れ、経済的にやっていけないという不安から子供を殺してはいけない。孤児の財産に近づいてはならない。彼らによく振舞わなければならない。私通から遠ざかっていなければならない。正当な権利なく人を殺してはいけない。約束を守りなさい。秤を正しく保ちなさい。誠実でありなさい。自分の知識のないものに従ってはならない。横柄に地上を歩いてはならない。」

ミアラージュの夜が、私達全ての為に、善をもたらすものとなるよう、アッラーに乞い願います。